

IBC2016 ヴィクトリア

佐藤俊哉(京都大学医療統計)

10日(日) 大失敗のレセプション…

昨日からヴィクトリア入り。午前中にホテルに隣接している会場の Victoria Conference Center(VCC)にレジストレーションをしに行く。その後、恵子先生がどうしても行きたいという Whale Watching を予約に行く。15:30 発のツアーを予約。VCC でジョギングから戻ってきたベルギーの Geert Molenberghs さんに遭遇。Geert さんとはいつもジョギングのときに会うのが不思議。15時半までまだ時間があるので、部屋でコーヒーを飲んでいてはたと大失敗に気がつく。今日は17時から学会のレセプションがあるのだが、Whale Watching は3時間かかるので15時半出発では間に合わないではないか。まあしかたないか。

ヴィクトリアに行ったら Whale Watching には必ず行くべきだ、とあえて言っておこう。予定通り18時半に帰ってきた。一旦部屋に戻ってレセプション会場に行くと入口に International Business Office の Dee Ann Walker さんがいて、やあやあ元気とご挨拶。会場はもうごった返している。久留米大の服部先生がいたので、~~飲み~~食事に行こうと誘う。神戸の IBC のときの会長だったオーストラリアの Kay Basford さんや、その前の会長のイギリスの Andrew Mead さんにもご挨拶する。

服部さんとイギリスで働いている島津さん、恵子先生と4人で Swan's という Brew Pub に向かう。服部さん、なにを思ったか今回は大学のドミトリに宿をとったそうだが、一泊して早々にホテルに宿を取り直したそう。そりゃそうだ。恵子先生と島津さんがイギリス話で盛り上がって、9時ちょっと前にお開きにしてホテルに戻る。

11日(月) 学会初日

今朝はオープニングセレモニー、会場には北大の飯島さんと伊藤先生が。オーガナイザー、国際プログラム委員長に続いて「Chief」という人が挨拶し、あれは誰ですか、と何人かに聞かれたのだが、たぶんこの地域のインディアンの前会長に違いない。プレジデンシャルアドレスは30分も早く終わってしまった。コーヒーを飲んで、Invited Session の Some Recent Developments in Incomplete Data Analysis in Biometrical Studies を聞く。Andrea Rotnizky さんが発表だが、字が小さくてスライドが読めない。それよりなにより Invited Session の会場が寒くて寒くて凍えてしまい、体調が悪くなる。ホテルに戻って少し横になるが、2時半から All Committee Chairs Meeting というのがあり、出席しないといけない。明日は Editorial Advisory Committee(EAC)があるのだが、委員長が所要で欠席のため、お前代理で委員長をやれと言われ、All Committee Chair Meeting にも出席するようにお達しがあった。会議は1時間で終わり、EACには特に議題というものなかったので安心したのが失敗だった。

コーヒーを飲んで、日本のみなさんたちと話をする。滋賀医大の田中佐智子先生は司朗

先生に子供の世話を任せて一人で来たそうで、だいじょうぶなんだろうか。晩は滋賀大の和泉先生と食事に行く。

12日(火) EAC

今回の会議はけっこうな会費(550米ドル)だったにも関わらず、ランチはついていないし、コーヒブレイクも昨日の午前はマフィンやらデニッシュやらがでていたものの、午後は飲み物のみ、今日のはりんごやバナナがあるだけであまりよろしくない。午前は Causal Inference の WJAR Invited Session を聞く。今回、通常の Invited Session のほかに、主催の Western North American Region (WJAR) の Invited Session が 12 もあり、さながら WJAR ミーティングのようである。ハーバードの Robins 先生が時間前に現れるのをはじめてみた。しかし、みんなスライドの文字が小さくよく読めないのと、数式ばかりでしかも早口、国際学会なんだからもうちょっとなんとかならないものか。

昼休みには前会長の John Hinde さんが chair の IBS Publication Group の会合があり、「トーテムポールの前で待つ」とメールがあったので、会場内のトーテムポールに向かう。(やはりインディアンである。) John さんはすでに待っていて、メンバーのひとりドイツの Jugen Kubler さんもすぐ現れたが、John さんが今朝会った、というオーストラリアの Brian Cullis さんがこない。しばらく待つが現れず、結局立ち話で打ち合わせとなった。John さんが EAC のアジェンダは、と聞くのであるが、雇われ chair なのでさっぱりわからない。(結局午後になってもよくわからないままであった。) Marie Davidian さんが来年いっぱい Biometrics の executive editor をリタイヤするので、その後任をみつけるのがたいへんだ、と言っていた。

Brian さんは現れず、13時半前に解散。まだ EAC まで時間があるのでポスターをみる。府立医大の横田さん、統数研の野間さんのポスターを説明してもらう。服部さんのポスターも説明してほしかったのだが、服部さんは影も形もみえなかった。少し早めに EAC の会場となる部屋に行くが、まだ誰もきていない。しばらくして、ドイツの Hans-Peter Piepho さん、オランダの Stijn Vansteelandt さん、あとは顔は見たことがあるが名前が一致しない人たちがやってきて(あとから、アメリカの Mike Daniels さん、Jose Pinheiro さん、ドイツの Andreas Ziegler さん、Brian Cullis さんとわかる) 14時から会議開始。

Biometrics, JABES のインパクトファクターがだだ下がり。2008年には Biometrics が 2 だったのが昨年は 1.57、JABES は 1.34 から 0.91。もちろんインパクトファクターなんかで統計の雑誌は評価できないのであるが、それにしても外部の人がみて「なんだこのインパクトファクターの低い雑誌は」と思われるのもしゃくである。幸い議論はインパクトファクターをどう上げるか、といったくだらないことではなく(実際にそんな志の低い議論をする学会誌もあるのであるが)、若い人が Biometrics に投稿したいと思わせるにはどうしたらいいか、となり、健全な方向に進んだ。

いやー、しかしこんな会議の代理委員長なんか引き受けるものではなかった。最後はなんとか強引にまとめ委員会を終了したが、冷や汗ものであった。コーヒブレイクでは、柳川先

生とエコチル調査のことを少し話す。今晚は、伊藤先生と医療統計の卒業生、リリーの大浦さん、小野の小谷さん、飯島さんと **Canoe** という **Brew Pub** で食事。ヴィクトリアはどこもビールがうまいが、このラガーは絶品であった。

14日(木) いろいろポスター

中日の昨日はエクスカージョンで学会はお休み。かつては海外に旅行に行くのがたいへんだったことと、たとえ休暇を取っても出張の前後に観光をするということは許されていないので、学会の途中に観光を入れることに意味があったのだろうが、いまとなってはあまりうれしくない。それよりも日程を1日短くしてもらったほうがありがたいのであるが **Old habits die hard** である。

今朝は安全性データベースのセッションへ。カナダの **Robert Platt** さんのネットワークのプレゼンがなかなかおもしろかった。最後のプレゼンはスキップして操作変数の **Invited Session** で **Stijn** さんの発表を聞く。メンデルランダム化と生存時間解析の話、やっぱり **Cox** 回帰は操作変数と相性が悪そうだ。

2018年の **IBC** はバルセロナ開催であるが、2020年の **IBC** には韓国と中国が立候補していておとといの **Conference Advisory Meeting** で決まっているはず。韓国の **Taesung Park** さんがいたので、韓国が勝ったか、と聞くと **Yes** とのこと。2020年の **IBC** 韓国開催はフルサポートしないとイケないですな。コーヒーだけ飲んで、恵子先生のポスターをチェックし、柳川先生のセッションへ。なぜか **Causal Inference** のセッションで、ベルギーの **Els** さんががんばっているいろいろとコメントしていたのには感心した。

今日は和泉さん、小谷さん、阪大の高橋さん(医療統計 **OG**)もポスターで発表。ポスター会場に向かい、塩野義の長谷川さんのポスターを説明してもらった。島津さん、名古屋の高橋先生、荒木さんと、今回の **IBC** は値段が高いわりに質が低いと文句を言いあう。島津さんは **JABES** の **Associate Editor** になったそうで、**JABES** の **Editorial Board Meeting** の話を聞いて、一昨日の **EAC** ではこんな話だった、と意見交換する。統数件の江口先生が **Biometrics** の **AE** なので、来年の総会報告から **IBS** のところに入れてもらおう。でも島津さんはもしかしたら **British & Irish Region** かもしれないなあ。

今日はカンファレンスディナーの日なので午後のセッションは14時半開始と30分遅くなっていた。午後は荒木さんの発表を聞いて、あとは **EAC** の会議メモを仕上げ、みんなで見て追加してね、とメールする。これでようやく肩の荷が下りた。本日最後の名古屋の高橋さんの発表を聞きに会場に行くと、島津さん、丹後先生、帝京大の山岡先生、名古屋の室谷さん、荒木さん、放影研の中島先生など日本人がたくさん応援(?)に来ていて、柳川先生、和泉さんもやってきた。そのせいか高橋さんはあがっていたようだ。

カンファレンスディナーは75米ドルと少々お高いお値段だったので、パスして今晚は恵子先生とふたりで食事に行く。

15日(金) 学会最終日

島津さんは夕べのディナーに行ったそうなので、感想を聞く。いつもはバスに乗せられて、延々1時間ほども郊外に連れていかれるのであるが、今回は会場のすぐそばにある BC 博物館でのディナーだった。しかしbuffetなのにフードもあまりなく、ソフトドリンクは飲み放題だが、アルコールは別料金、しかも75米ドルですよ、と文句を言っていた。島津さん、やっぱり所属は **British & Irish Region** なんだそうだが、なぜか日本の国内会員とのこと。はじめて横市の田栗先生をみた。本人曰く「初日から来ています」。

最後のセッションで UC Berkley の Nick Jewell さんが講演するので、恵子先生とあいさつに行く。Nick さんとは 2009 年に京都に来られた時からの仲で、たいへん喜んでいて。Statistics and Human Rights というセッションで、法科学の話(DNA のマッチとか指紋の一致とか)、Civilian casualties(文民死亡)の数の推定、などちょっと重いセッションだった。これで今回の学会も終わり、恵子先生のポスターをはがしに行く。と柳川先生に遭遇し、恵子先生はデータ公開の件で柳川先生とお話していた。柳川先生は日曜に帰るそうで、明日はカヤックをやるんだ、といっている。

クロージングセレモニーに顔を出し、次回のバルセロナに期待は高まる。Dee Ann さんが8月で Bostrom を辞めるというので挨拶に行く。2011 年には Kay さんとふたりで大阪での年会にきてもらい、その後で神戸の会場の下見もしてもらって、神戸の IBC ではたいへんお世話になった。お礼を言ってお別れする。